



令和4年12月2日

主体性はなぜ必要？

急速に変化する社会の中で生き抜こう！！！！

急速な IT 化の影響で、10～20 年後には今ある職業の 49%が機械に代替される可能性があるといわれています。そのため、変化の激しい社会の中で子どもたちが生きぬくためには、主体性が重要です。子どもの主体性を育むための取り組みを行っている学校も多数あります。その取り組みはさまざまですが、**「子どもの興味関心を引き出す」ことを重要視**している共通点があります。興味関心から始まる活動や勉強は、子どもの探求心をくすぐり、**「もっと知りたい」「こんなこともやってみたい」という主体的な学び**へとつながります。また、あらかじめ与えられたゴールをめざすのではなく、**「試行錯誤を繰り返しながら子どもたち自身でゴールを見つける」**ことも大切にされています。学校だけではなく、各家庭でも、ちょっとした工夫で子どもの主体性を育むことができます。今回の「朝風」では、少しでも子育ての中で、主体性を育む環境や接し方について考えてみましょう。



過干渉は主体性をなくしてしまう

朝起きた子どもに「顔は洗った？」「早くご飯食べて」「ハンカチ持った？」と。学校から帰宅した子どもには「手を洗った？」「おやつ出しておいたよ」「早く宿題して」と。心配する気持ちから、つい細かく**「声をかけたくなるのが親心**かもしれません。ところが、親が子どもに干渉しすぎると、子どもは次第に自分で物事を考えたり、判断したりすることがなくなってきます。「言われたものを用意しよう」「言われてからやろう」という受動的な思考に落ちてしまうのです。ある程度は子どもの主体性に任せ、**「失敗しても本人の責任」**と思うことも大切です。

子どもの主体性を引き出す方法

では、どうすれば子どもの主体性を引き出せるのでしょうか？主体性のない子どもは、「自分で決める力」が弱い傾向にあります。「服をどれにするか」「外食先のメニューはなにがいいか」など、ささいなことでも良いので、「どうする？」と子どもに聞きましょう。自分で決める練習を積み重ねることがポイントです。慣れるまでは、「こっちとこっち、どっちがいい？」と選択肢を用意するのもおすすめです。

自己肯定感を育てる

「自分で考え、判断し、責任をもって行動する」力である主体性。実は、この主体性を発揮するためには**「自己肯定感が欠かせません」**。「失敗しても大丈夫」「このままの自分を受け入れ、愛してもらえる」という自己肯定感があって初めて、「やってみよう」「挑戦してみよう」と思えるのです。子どもの失敗を責めるのではなく、「もう一度やってみよう」「お母さん、お父さんは味方だからね」という**「温かい見守りの姿勢を大切に**してください。



子どもの個性を受け入れる

ふとした瞬間に子どもの自主性の芽が出る場合があります。しかし、それが親の予想から外れていると「それはやめたら？」「絶対むりだよ」など、ネガティブな言葉かけをしてしまいがち。せっかく興味をもったことを否定され続けると、子どもはやはり「言われた通りにしておこう」と思ってしまいます。**「親と子どもは、血はつながっていても別の人間」**。子どもの個性を受け入れ、**「新しいことに挑戦する機会」**を設けましょう。

主体性を育む実体験

本や動画から**「知識を得るだけではなく、それを活用して実際に体験する」**ように心がけてください。自然遊び、実験遊び、スポーツ、芸術活動など、子どもが興味をもったことにはなるべく体験させてあげたいもの。体験の幅を広げることで、主体性を育むことはもちろん、子どもの将来の選択肢を広げることもつながります。

県駅伝大会

11月20日(日)四日市市中央緑地にて、県中学校駅伝大会が行われ、朝日中学校からは、女子チームがレースに参加しました。

10時にレースはスタート。これまでの練習通り、メンバー全員が落ち着いて粘りの走りを見せてくれました。 **結果は何と！56校中、8位に入賞です。**

2区では、井上葵依さんが、区間新のタイムを叩き出しました。朝日中学校の入賞にみんな大喜びでした。保護者の方や先生方など、たくさんの皆さんが応援に駆けつけてくださいました。結果はもちろんですが、こういう所が、朝日中学校のステキなところ。選手のみなさん、引率や運営の先生方や生徒のみなさん。本当にお疲れ様でした。



三重郡子ども人権フォーラム



11月25日(金)菟野庁舎にて「三重郡子ども人権フォーラム」が開催され、本校からも、4名の生徒が参加しました。小中学校の代表者が6つのグループに分かれ、分散会を行い、様々な体験や人権問題についてそれぞれが共有し、「自分のこと」「自分の身近にもあること」と考え、ともに高め合うことのできたフォーラムとなりました。4名のみなさんには、今後も朝日中の人権について考えていく上でのリーダーとして、今回の体験をもとに活躍してほしいと思います。



また、本校では期末テスト終了後に、各クラスで説明と缶バッジの配布を行い、11月28日(月)からの1週間、全校生徒・職員が、バッジを身に着けて、いじめ防止運動に取り組みました。

部活動希望者加入制について

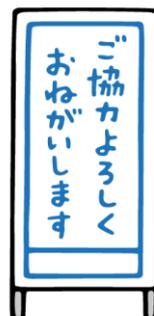


学校部活動の地域移行への今後の流れや、「主体的な子どもの活動」という観点から、朝日中学校では、**令和5年4月より**、部活動における従来の全員加入制から、**希望者加入制**とすることといたします。すでに部活動を引退している3年生を除いて、現1、2年生の生徒及び保護者の方と、次年度入学してくる朝日小学校6年生とその保護者の方には、アンケートにご協力いただき、今後、朝日町における学校部活動の地域移行のための検討委員会や中学校での各部活動における部員数を、事前に把握するための参考とさせていただきます。

来年度の新1年生はもちろんですが、現在各部活動に所属している在校生のみなさんも含め、**すべてが希望者加入制の対象となります。**特に現1、2年生のみなさんは、令和5年4月から、現在所属する部活動を継続しても良いし、部活動から離れて、放課後は自分の好きな活動のために時間を充てることもできるようになります。「そうすると、悩んでしまうなあ…」という人もいられるかもしれませんが、現時点での気持ちをアンケートで教えてください。アンケートはGoogleで実施します。

部活動アンケート<中学生>

朝日中学校1・2年生のみなさんへ



アンケート実施期間 12月5日(月)～16日(金) ★Googleによるアンケート・在校生用(例)

朝日町教育委員会

昨年度以降、報道でもよく取り上げられていますが、休日の中学校部活動の地域移行(部活動と教員の働き方改革を両立させるため、休日の中学校部活動を地域のスポーツクラブなどに移行すること)が、令和5年度から段階的に実施されます(令和8年度から完全移行)。そのため、朝日町でも本年度より、部活動の地域移行をどのように進めていくかなどについて、検討を進めています。また、中学校では令和5年度4月から希望者加入制の部活動実施を予定しており、今回の皆さまからの回答を、朝日町における検討委員会及び、中学校での参考資料とさせていただくとともに、より良い環境整備に生かすため、以下のアンケートにご協力をお願いします。